
令和 4 年 度

事業報告書

社会福祉法人育美会
むさしの保育園

全ての利用者を大切に、それぞれ必要に応じた適切な支援が出来るよう、職員で連携を心がけた。法人職員とも連携を密にし、保育園同士では必要な部分に関して望ましいマニュアル作りを継続した。

1. 家庭との連携

少子化や地域の希薄な環境、自然破壊環境、不審者等の不安など、家庭で抱えている問題が多く、安心して子育てしにくい状況になっている為家庭との連絡を密にし、一緒に寄り添えるようにした。そのために園児の家庭での様子を聴いたり、園での様子を伝えるため、お便り、連絡帳、掲示物、個人面談等さまざまな工夫を行った。

問題を伴う相談に関して、慎重に速やかに解決できるよう最善な方法を取るようにした。

前年度に続き、家庭状況、発達に不安を抱えて特別な配慮が必要な家庭に対し寄り添うとともに、小学校との連携も密にし、少しでも不安を少なくする手立てを講じた。

2. 保育について

毎日の保育では、発達の違いを考慮しつつ、無理のないよう基本の生活習慣を身につけたり、むさしの保育園の恵まれた園内外の環境を生かしてたくさん遊びこめるようにした。

全職員が発達障害をもつこどもの保育を実体験しつつ協力し、問題の解決に努めた。

行事は、子どもたちが友だちと一緒に主体的に取り組み、達成感を味わい、積み重ねによる充実感を感じられるよう工夫した。

食に関して、安全で美味しいものを提供できるようにし、睡眠も良い環境で保障するようにした。

三施設の交流事業はコロナウイルス感染予防のため実施することができなかったが園内の活動は感染状況を考慮しつつできることを探しながら実施することができた。

3. 健康、安全管理について

食物アレルギーの対応を必要とする園児は今年度も在籍していた。

受診時の様子やアレルギー反応のテストの結果等を職員間で共有しつつ引き続き安全を第一に尚且つ楽しい食事を心掛けた。

自然の中で充分遊ぶことにより、健康な身体作りを心がけた。日々の視診、身体測定、健診などを通して異常や伝染病の早期発見、早期対策がとれるようにした。

園内外の安全体制の確認を行い、職員間、保護者間の協力体制をつくり、園児の安全を守るように努めた。又、子どもたち自身も安全に対する学習がしていけるように心がけた。

コロナウィルス感染予防のために丁寧な手洗いや健康を意識した生活を家庭とともに送ったことで体調不良での欠席が減少していたが、冬期には久しぶりにインフルエンザや他の感染症がみられ、感染症の経験が少ないためかコロナウィルス出現前より感染力が強く症状も激しいことが多かった。

4. 併用事業

一時保育は年間で延べ434人を受け入れ各年令のクラスで一緒に楽しく生活できるようにした。支援事業(つどいの広場)は行政の指導によりは午前4組、午後4組の事前予約制で感染予防を行いながら利用者を受け入れた。

近隣への散歩やわらべうた講座、季節の制作、離乳食おしゃべり会などこれまでの実績の中から可能な内容を工夫しながら実践した。

今年度も子育て相談の内容によっては、リフレッシュのための一時保育の受け入れにつなげることで健全な育児への援助を行った。

5. 防災管理について

緊急災害に対する対策としての避難訓練を毎月行い、時間帯、内容、方法に変化をつけて実施し指導した。又、災害防止に関して、担当制にしたり、経験を伝えあったりして再発防止に努めた。大雨による災害時についても検討し避難計画を作成した。

6. コロナウィルス感染拡大の影響

感染予防のため例年通りの行事の実施が困難になったが、保護者の理解を得ながら可能な範囲で行い、今年度も行事の在り方について検討は続いていた。

感染について見えてきたことを頼りに保育は変わり始めている。

5才児の観劇会への参加や運動会や卒園式の実施については内容を工夫し制限を減らし、実施することができた。

保育園関係者の感染のため8月に0.1才児クラスのみ登園自粛を行った。

自粛期間中は保育を実施しつつ施設や備品の消毒を行い、今後の感染対策について再検討した。

7. 工事および備品購入について

- ・備品購入…ワイヤレスマイク、アンプ
- ・メンテナンス…0.1才児2才児室壁付け扇風機交換